

平成 28 年（2016 年）2 月 15 日

「コグニティブ・イノベーションセンター」を新設 ～新技術コグニティブ・テクノロジーで 社会、産業、新ビジネスにイノベーションを～

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所（NII、所長：喜連川 優、東京都千代田区）は、日本の社会や産業界に変革をもたらすようなコグニティブ・テクノロジーによるイノベーションを推進する研究部門「コグニティブ・イノベーションセンター」を新設しました。本センターは 2 月 1 日付で NII の研究施設^(*1)の一つとして設置され、センター長には、第 10 代人工知能学会会長を務めた石塚 満（いしづか・みつる）氏（早稲田大学基幹理工学研究科情報理工専攻教授、NII 客員教授、東京大学名誉教授）を招聘しました。本センターは、日本アイ・ビー・エム株式会社（日本 IBM）と研究契約を結んで同社の支援を得るとともに、幅広い業界の日本を代表する企業の参画により、コグニティブ・テクノロジーの社会応用促進に向けた意識変革と最先端技術と産業の新たな結びつきの発見という二つのイノベーションを起こすことを目的としています。

本センターの中心テーマであるコグニティブ・テクノロジーは、機械学習や自然言語の処理と理解、ビッグデータや知識ベースの構築と利用など知的情報処理の集合体です。近年、人工知能（AI）が著しい進展をみせて注目を集めていますが、多くの要素技術はいわゆる人工知能研究者の外の世界から生まれつつあるように、「コグニティブ・イノベーションセンター」ではディープラーニングなどの最新の AI 技術にとどまらず、先端的情報技術を幅広く活用し、とりわけ、ビッグデータから学習して自然なインタラクションの中で人間の認知や判断を支援する面に主眼を置いています。

NII は情報学分野で国内唯一の学術総合研究所として、情報学分野での未来価値創生を使命としています。NII は今後も産学連携を積極的に進め、研究成果の実装により社会にイノベーションを起こせるような活動に取り組んでいきます。

本件の発表につきましては、文部科学記者会と科学記者クラブを通じて加盟メディアの皆様にご覧いただき、資料配布しているほか、過去に NII をご取材いただいた方などにも本リリースをお送りしています。同一メディアの複数の部署・記者の方に重複して配信される場合がありますことを、ご了承お願いいたします。

【背景と本センターが狙うイノベーション】

社会や産業、新しいビジネスに大きな影響を与える技術として、近年、人工知能（AI）に対する世界的な関心が高まっています。「コグニティブ・イノベーションセンター」の中心テーマであるコグニティブ・テクノロジーは、ディープラーニングなど AI の技術を包含した幅の広い技術です。

IT の競争力においては、「オリジナルな先端研究力」と「社会、産業、新ビジネスへの新技術の活用・展開力」が重要な要素となっています。独自の技術を研究開発して新ビジネスを生むことができれば、その利益を新たな研究開発への投資に回してさらなる成長を生む、という好循環を形作ることができるため、多くの研究機関はオリジナルな先端研究力の強化を目指しています。「コグニティブ・イノベーションセンター」の狙いは、コグニティブ・テクノロジーを社会や産業、新ビジネスに結び付け、それによってイノベーションを創出することです。つまり、新技術自体の研究を推進すると同時に、むしろ、先端的なコグニティブ・テクノロジーによって拓かれた新たな地平からイノベーションを発掘し、また、創出することを目指します。

「コグニティブ・イノベーションセンター」では、NII が持つコンピタンスに加え、世界に 2000 人を超える研究者・開発者を擁する IBM グループの知見や、NII の研究者に日本 IBM からご提供いただく「IBM Watson」やアプリケーションの構築・管理のためのクラウド基盤「IBM Bluemix」をはじめとする独自技術、さらに、後述します研究会にご参画いただく各企業のお知恵も融合しながら、新たな価値創出に挑戦します。このことは本センターの大きな特徴であり、小規模ながらもグローバルな視点と技術を備えたセンターとなります。

「コグニティブ・イノベーションセンター」は最先端のコグニティブ・テクノロジーと社会、産業、新ビジネスの従来なかった結びつきを発掘、発見していきます。そして、本センターが新たなイノベーションが生まれる際の触媒となり、その流れを増進する役割も果たすことを目指します。

【具体的な活動・アプローチ】

社会や産業界でコグニティブ・テクノロジーを効果的に活用、展開するために、「コグニティブ・イノベーションセンター」は幅広い業界の日本を代表する企業に参画を呼びかけて定期的に研究会を開催してまいります^(*)。この研究会に参画企業からご参加いただくのは、CEO（最高経営責任者）やCOO（最高執行責任者）といった自社の経営判断に直接関与するレベルの役員を想定しています。

研究会では、コグニティブ・テクノロジーに関する研究成果やビジネス応用例などコグニティブ・テクノロジーを活用したビジネスの実現に必要な知識情報を提供してまいります。また、最先端技術を応用した新しいビジネス・コンセプトの創造に取り組むとともに、コグニティブ・テクノロジーによるイノベーションの有用性や実現性の評価を可能にするため、デモシステムの開発も行う予定です。なお、この研究会は、日本 IBM が昨年 10 月に技術とビジネスの融合を進めるために開設した東京・丸の内「戦略共創センター」や NII にて開催します。

「コグニティブ・イノベーションセンター」は NII の研究施設として設置・運営されることから、一企業内の見方や知識の枠を超え、アカデミアに蓄積された英知やデータも動員したイノベーションを可能にします。NII では本センターの研究活動にあたり、NII 内の研究者をはじめ、共同利用研究機関として、大学など他の情報系研究機関の研究者らとも連携・協力を進めていくことにしています。

以上

〈メディアの皆様からのお問い合わせ先〉

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構**国立情報学研究所**

総務部企画課 広報チーム（担当：美土路昭一）

TEL：03-4212-2164 E-Mail：media@nii.ac.jp



(*1)「研究施設」：特定の専門分野についての研究に専念することを目的に設置される研究部門。「コグニティブ・イノベーションセンター」の新設により、NII に設置されている研究施設の数（は、昨年 4 月 1 日付で設置されたクラウド基盤研究開発センターとデータセット共同利用研究開発センター、本年 2 月 1 日付で新設された金融スマートデータ研究センターなど「11」となる。

(*2) 本発表時点でコグニティブ・イノベーションセンターに参画を表明している企業

- ・ アルパイン株式会社
- ・ イオンフィナンシャルサービス株式会社
- ・ オリンパス株式会社
- ・ 株式会社エイチ・アイ・エス
- ・ 株式会社小松製作所
- ・ 株式会社みずほフィナンシャルグループ
- ・ 株式会社三井住友銀行
- ・ 株式会社三越伊勢丹ホールディングス
- ・ 株式会社三菱東京 UFJ 銀行
- ・ キッコーマン食品株式会社
- ・ キリンビール株式会社
- ・ 第一生命保険株式会社
- ・ 帝人株式会社
- ・ DIC 株式会社
- ・ 東京海上日動火災保険株式会社
- ・ 日揮株式会社
- ・ 日産自動車株式会社
- ・ 日本航空株式会社
- ・ パナソニック株式会社
- ・ 三菱自動車工業株式会社
- ・ 明治安田生命保険相互会社

※五十音順